

令和5年度
大阪府教育庁「スクール・エンパワーメント
(SE)推進事業」研究校
【国語の授業づくりモデル小学校】

八尾市立八尾小学校
永井 陽寛

○八尾小学校 概要

R5年度 児童数 663名

クラス	1年	4クラス	2年	4クラス
	3年	3クラス	4年	4クラス
	5年	3クラス	6年	3クラス
	支援	7クラス		

子どもの様子

- ・基礎学力が定着している児童が多いが、
「**記述力**」「**情報操作能力**」の点で二極化が進んでいる。

○これまでの取組み

- ・国語の研究が5年目
- ・R4年度は物語文に限定して各学年1回ずつの研究授業を実施
- ・R4年度より岡山理科大学 准教授 正木友則先生の指導助言

R4年度 研究テーマ

「単元構成をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ深める
授業のあり方～文脈を根拠にして書く力を育てる～」

研究授業日程

1学期	2年	6月	29日(水)	「スイミー」
2学期	5年	10月	19日(水)	「たずねびと」
	3年	11月	9日(水)	「三年とうげ」
	4年	11月	16日(水)	「ごんぎつね」
3学期	1年	2月	1日(水)	「たぬきの糸車」
	6年	2月	8日(水)	「海の命」

○研究授業のまとめ

各研究授業後に学力向上部の担当が、研究討議で質問に挙げたことや、正木先生から助言頂いたことを中心にまとめ、先生方に配付

授業づくり

「子どもたち＋教師」の文脈×教材の特性×**夢中になる学習活動**

授業での姿

子どもたちの姿×授業者のねがい・ねらい×研究テーマ

2年生研究授業まとめ

2022.6.29 指導教諭



スイミーの特性

- ①場所がある
- ②大きな魚を追い出したのあとが書かれていない。
- ③元気を取り戻した→どういう事？
元気じゃなかったという事？
- ④スイミーの言葉、言った・きけた 教えた
行為の違い

教えたという行為は、
「教えた」という行為がある。
「教えた」という行為がある。

紹介文を書くという活動について

紹介したいと思う時ってどんな時？
→おいしいものを食べた時
→伝えたい事がある時
→がっかりする時、悲しい時、嬉しい時、怒り、
だから全部読まないで紹介できないね。

- ・心算線は、先生が示すか、子どもが書くかで変わる。表すことが目的ではなく、説明するための仕掛けにならないといけない。
- ・「魚気がある」の表現は「魚気がない」になってしまうので、「朝」「夜」「夕」「朝」にしたい方がよい。
- ・表現は、登場人物の同化の入り口。読者の手帳や動作かという方法もある。
- ・考える時間は十分設定してないといけない。自分と向き合う時間。
- ・なぜ一人で考え、発表する必要があるのか

図解されていることを発表

図解を自分から言う

図解されているのは褒め

思考・協議 人と話せる それが図解の面白さ だから自分から言う

なぜ追い出されたか

一言で・・・「悲しみに出会ったから」という正木先生の考え。
最初から知恵があったわけでは
ないと考えた が3回も繰り返される
それだけ何かがある。

「なぜ」は「何のために」と「理由」がごちゃ
混ぜになってしまう時がある。なぜは意味が伝
えずに主語に向く。だから子どもがどの思考
で動けばいいかわからない。また教師は理由な
のか、何のためになのか、を説明できればよい。

教材の特性 X 夢中になる学習活動

学習活動の特性	学習活動の特性
学習活動の特性	学習活動の特性
学習活動の特性	学習活動の特性

5年生研究授業まとめ

2022.10.12 指導教諭



意図

- ・最終場面ではなく、全場面と関連づける。
- ・「意図」ととらえるとは？
意図という言葉をとても難しい。学び、考え方を示す必要がある。人物
なのか、物なのか、環境なのか、子どもたちが意図をとらえられたとし
ても、教師が示さない。
意図をとらえられないのは、学習活動の設計ができていない。
こんなことばかりだと大抵の子どもは、と積み上げるためにも意図
をしておく必要がある。

挿絵の比較

ノートに書くぐらいでも深くしてはし
ない。「どうして？」「もう少し詳しく」
返答するのはなく、もっと広げるとよ
い。挿絵を考えると、子どもたちはもっ
と詳しくはする。

図の考え

図の考え→挿絵の考え→図の考え
今日は12分30秒
考える時間をどれだけ確保するか、
ふりかえりも分けてほしい。

集団について

- ・先生の話を聞くことはできていたが、発表をしていることを聞いていたかは・・・？
声の大きさ、態度がすべてではないが、子どもたちにも「聞く」態度が養えたらよか
い。高学年のいい例ではないが、高学年、アムズで聞いてほしい。
- ・じゃあ、何のためにきかないといけないのか。プラスのことがあるから。

立ち回りで考えるのは

- 一人で考えたい子もいる。
- 友達と考えたい子もいる。【別行動になる】
- 〇〇さんと考えたい。
- 考える方法が豊富でよい。

教材の特性

- ・「誰が」「何で」あること→読者（小学生）→同年代
（読者はさっさと意図しているが、「なまなつけてよ」から主人公が同年代
- ・具体→抽象の仕組になっている
- ・出てくる人物は、お母さん、お兄ちゃん、おじいちゃん、おばあさん（読者）
おじいさんが休職になったから、兄と娘が協力して行かなければならなかった。
- ・対人物は、おばあさん？アヤアヤを動かしたのには、アヤアヤと書いてもいいかも。
- ・挿絵は高学年で読んだ。高学年とどんな会話をしたのか、もしくは読後もあるから、
帰ってから母に話せるか。もう一度復習するチャンスはある。
- こういう授業もできるから・・・

4年生研究授業まとめ

2022.11.2 指導教諭



戻ったのか

「はい」「いいえ」になる。
読者のズレを指し合う活動でもよい。
決着をつけようとする。
ごんごんは再びに帰らなかった
ということを確認することにするわわわわ。

グループ活動

深めるためには3〜4人以上は多い。
ペア、もしくは5人くらいがよい。

ごんごんは再びにどいたのか

ごんごんは再びにどいたのか「何らかの『思い』がある」という前提
ごんごんは再びにどいたのか
ここに色を入れてくるはず 思いの感情
それを踏まえて
つぎの思いというキーワードにも色んな感情がある
思いを伝える/届ける のめが
言葉で書けない。くりにくた。だから「届ける」で書ける。

発表の時に 気づかせたい言葉は入れてはならぬ

るを演じてつなぐ言葉・・・
→場面から場面へ言葉を入れてほしい。
「しかし」とか「けれど」とかかかると、「つなぐ言葉だね、じゃなつなつて
るよ」となる。

考える時間の確保

時間を決めてから、すぐ答えられるのは、子どもたちにも準備されている
もの。個々の考えを聞く時間。

決着をつける

先生がつけるものではない。子どもたちが、自然に納得するものや
教師があげれば、子どもたちが納得できていけばそれでいい。
教師は「〇〇はない」と言わせてしまうと、教師のメッセージで、話し合っ
ても先生にひっくり返されると思ってしまう。
→子どもたちも思えないよね、はあり。

この物語は・・・

再び→〇〇→読者という新しい人
→私（私たち）（読み手）
という事・・・
再びが100%全部読んだとは思えないが
土曜に付け加えられていた？
そのあとの再びについて考える。



3 年生研究授業まとめ

2022.11.9 推導性推導器



まじめまでできる人が止かった。
学習開始の確率もできていた。

たがやま堀園

新聞と今朝のつなぎが読かった。一文でまとめたものを、もっとたくさん書いて、「おじいさんが～」となるから、「だったらみんなが世のおじいさんがほしくないー」場面はいらないね？」とつぶやきながら読んでいた。

Witch 型の目的はどこにあるか

- ①できる限り多くの子どもたちが意見をもちこことができる。
②意見がけられることにより、思考・議論が活性化できる。
③教師の議題群の中では、自由に考えることができるようになる。
自由は不自由、自由すぎて考えにくい。
案いつか、子どもたちが問題を思考する目的のために、
自由な意見をいくために。
④子どもたちが考える手段として使えるようになるために。
そういう考えもあるわけ、そしてそれは面白い。
という議論をもっと重ねたい。
しかし、一歩中々やっているのは違う。
最初の問題で議論をもっと踏まえて大喧嘩よねって言うのはいい
けど、戦いになってWUのやまをやるというようではいけない。
自分の考えをもつて、相対で考えるようになってほしい。

榮國の工夫

中国の仕掛けと五水連発は言っている。
 ・靖国は必要であるかどうか。戦犯の改悔、見かねてないか。
 ・靖国には役割があるということ、思考がストップしてしまう。
 美空がいらないよねと書くと、それを肯定しにくくて考えやすい。
 子どもが美空に「遺言よ」というのが現代ではよい。
 しかし、戦犯の謝罪と謝罪していないのがこの学問の特殊。
 も、全員が「いる」ってなった時、様子が解しい。

一場面の一番大切な一文はどれか

これも witch の一つ。
「江戸時代を生きる男はお茶のお茶屋へ」
これがないと新しいダンが来ずここまで読む面白味は皆無
らない。これが一番大切な文で下までいけねえよ。と。
また、動物化するなら、お茶のお茶屋のひとにもできる。
「猫だって犬だってお茶の店」の「お茶のお茶屋」
というギャップまでいけるとよかった。

骨髓

音調が素晴らしかったので、「どう読んだ？」という
質問までいけそうだった。

1 年生研究授業まとめ

2023.1.25 指導性通読



運送も

「きこりに誤得せなあんよな。」
 なんて誤得せなあんよのか。・・・まもらに誤りしてもよかった。
 新かみさんの気持ちも考え、
 「お前さんな悪いやつじゃないよな」
 となればいい。

指導案

通常、教科書→見直し→演習の順で学習を進めるが、
1見直し→2教科書→3演習の順で考えてみてはどうか。
なぜ、今時の受験でこの学習法を選択したのか？という問いへの答えが書か
れているように。

- ① この手紙で、このようなことを書き上げました。歴史のようなものを、これを歴史観に書くためには、自分自身の視点を振り返らなければならぬ。
- ② だから、この教材をこう見る。
- ③ ①を念頭に、このように認識する。

今の指導者が悪いわけではないが、黒澤監督死に替けるという、
今風の授業では、子どもたちと役割演習や音読をしてきたから、
「座る」という単語をとった。

しかけ

インタビューにすると、「よし、やってみよう」と思える。「なりきる」につながる活動。「もし……だったら……」にすると、やり易くなる。

449

おかみさんになることを通して、おかみさんのためさへの気持ちの変化、気持ちも考える。

ババを考えて、は無限。

おから「なりきる」＝思わずに染めるという意味。「なる」「みる」に響きやすいように用いる、優待。

教材のおもしろさ

- ① どにおもしろそうを感じるか ② んめきのばねは真実をかくしていない
③ ごんずつねとの情熱(ごんとは親友が通う) 「うれしくてたまらない」「びんぎょ」
④ いたずらの延長7問目7問目? 「色」考えることができる。 ⑤ んめきのやっていることは読み手が知っている
⑥ きりおの存在(結局を通して姿を見える) ⑦ んめきのやっていることは読み手が知っている
→ 6年級の橋田と一致。

6年生研究授業まとめ

2023.2.8 指導推進録



何・何 (What)

What? このゲームに参加するようにというメッセージ、答える覚悟がないうちと書いてある。そして、答えるかと思ってしまう、「誰の命って何?」と聞いても

- ・太一にとって?
- ・陽香にとって?
- ・お恵のい子にとって?
- ・みんなにとっての誰の命なのか?

どこをいふから考えればよいかわからなくなる。

鎌倉の皇の義孝

「父と同じになるから」と答えた亮吉がいたとして
下「参加できなくていいね」とはめる。
そのあと「似ている人？」からつながっていく。
息の長い旅をさせてきたら結構いいね。

子どもたちに促したい思考・協議
 →無害の成分にどのようなことが入ってほしいのか
 Aどこからどう来たか
 B自分だったらどう思うか
 Cのちを聞いては

こときれていた

息がたえる 生命がなくなる 決意がつく

「**22-4 (Why)**」

「なぜ (Why)」と聞くと

「それはへだから (Dacarca)」という語彙で答えないといけないというルールになってしまう。「へだからでずい。」になる。そうすると、理由や根拠がない。「理由や根拠」があることで読みかたはのびに、「へだからでずい。」になる理由まで言えなくなってしまふ。できる子は、考字十考字を成る理由をセットで答えるように訓練されている。

なぜを考察すると、言語身体動作研究にも負い、

「なぜ (Why)」と聞くと
↓
＝それ＝聞きの答え

「今は～だから (Because)」
1 次への情を考える
2 対たなかった判断の根拠を考える
3 原因を述べ
なぜだと、を問うてきてしまう。

五線は太一に聞かないと分からない。
なぜ聞きたとしても・・・

「対になかったのか/対でなかったのか
、君のまを前にすんだのか/父のようにならずに導んだのか
、実態をつかった/実情がこぼれた、間違
い」「どう思うことによって、心の軌道？
など聞かうのはどうかな、

○学力向上部によるミニ研修

- ・R3年度から放課後の時間を活用
- ・R3年度は「物語文」、R4年度は「説明文」で年に6回程度

研究討議の内容を受けて、単元の進め方の例や発問の例を先生方と共有

- ・言語活動を設定した**逆向きの単元づくり**
- ・判断で子どもの思考を促す「**ゆさぶり発問**」
- ・それぞれの授業の疑問、困り感の共有 など

○授業づくりのハンドブック配付

授業で大切にしたいこと

☆昨年度の研究を参考に作成した資料です。先生方のオリジナルを大切にしながら、共に授業を考えていければと考えていますので、お力の一つになれば幸いです。

研究テーマ(国語)

「単元構成をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ深める授業のあり方

～文脈を根拠にして書く力を育てる～」

授業作りについて(国語)

- ① 「作品の構成、テーマ、子どもたちにつけさせたい力」などの教材分析をする。
まずは、一にも二にも教材分析からです。「教材を教える」のではなく「教材で教える」。そのためにその作品の持つ力を分析し、先生自身の解釈をもって授業を組み立てていきましょう。

教材分析の視点

- ・作品の構成…場面分け(状況の整理) 山場・結語など
- ・テーマ…作品から伝わってきたことを考える
- ・つけさせたい力…各学年・各単元で獲得させたい「国語の読みの観点」

- ② 単元を作るにあたっては言語活動を設定し、その活動に向けた単元構成を行う。
単元の最後に言語活動を行うことで、その単元での学びを自分の言葉で表現する力を培いましょう。

言語活動例

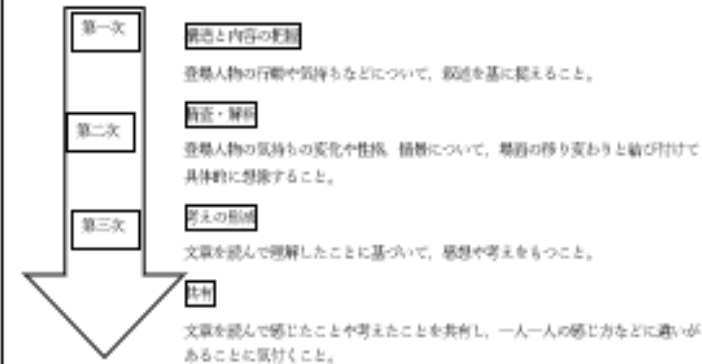
- ・長文でまとめる(手紙を書く、意見文、報告文 など)
- ・短く言葉でまとめる(リーフレット、紙、サブタイトル など)
- ・表現活動(音読劇、再現劇、ニュース番組作り など)

など、作品の特性や発達段階に合わせて設定していきましょう。子どもたちが「何のために教材を読むのか」という目標を定ずることで主体性や意欲が向上していきます。その際の注意点は、活動することが目的にならないように気を付けていきましょう。目的はあくまで「力をつけること」であって「活動」はそのための手段です。

- ③ 単元目標にそって子どもたちが主体的に学習できるように各時間の授業を作る。
設定した単元目標、言語活動にそって各時間を展開していきましょう。各時間の考える内容やめあてを提示することで読みを促していきます。この時、教師から提示するのも良い方法の一つです。また、「子ども自身も立ち止まって考えたいところ」を積み込みながら進めると、より主体性が増して良いです。授業の感想にある子どもたちの声や疑問を基に展開していくことが理想です。

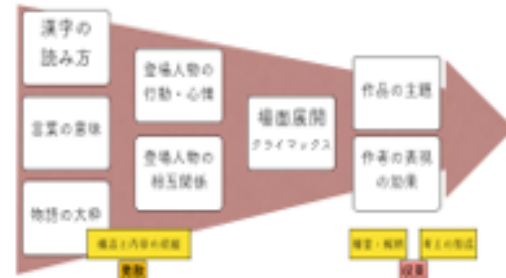
単元構成について

学習過程



(八木先生研修より)

単元はじめの「問い」を見取り、授業をつくる



子どもたちの学習過程をイメージして、「問い」を受け止めていく

(新松先生研修より)

○問いについて

物語作品を読む際には中心人物の心算の変化を読み取っていきます。
「気持ちも言葉もわからない」発問を使い、子どもたちの思考を深めていきましょう。

三つの大きな問い

- ・「どのように変わったのか」 変化の前後、過程を確認
- ・「何が変えたのか」 変化の要因、原因となったものについて
- ・「どうして変わったのか」 変化した理由

これらの問いを軸にして、それぞれの授業での問いに繋げていってみてください。教師側が何について問うているのかをしっかりと認識しながら進めないと、授業が混乱してしまいますので注意していきましょう。また、「答えを言わせる発問」ではなく、「子どもが自問になり、探究が促される発問」を目指しましょう。子どもたちが話し合いながら、自分たちの考えを育てていけたらいいですね。

○まとめとよりかえり

まとめ

その時間の学習内容を自分の言葉でまとめていきます。クラス全体での話し合いの内容や板書を基にしたまとめを行います。

よりかえり

その時間での自分の考えの更新を自分の言葉でまとめていきます。もともとあった自分の考えと、クラスの仲間との考えを踏まえて、新たにできた考えを書き記します。

学習の最後の書く活動には取方の観点での記述が大切です。慣れてくれば両方きんぐふりかえりが書けるようになってきますが、慣れないうちは分けて書かせてもいいかもしれません。

○さいごに

各学年の国語の教科書の巻末に「言葉の宝庫」が掲載されています。「考えや気持ちを伝える言葉」ではなく、人の感情や気持ちを表す言葉が載っており、語彙量を増やしていくことで、豊かな表現力に繋がります。また、「学習に用いる言葉」では、その学年でつけさせたい国語の力やこれまでに身につけている国語の力について、子どもたちにもわかりやすく載っています。先生方も活用されていると思いますが、子どもたちにも活用するように意識させることで、自分の力で考えていくことが身につけていきます。

子どもたちが、学ぶことの楽しさ、繋がることの素晴らしさを実感できるように、また、先生方自身が授業を楽しめるように、少しでも指導者としての力になればと考えています。八尾小学校の子どもたちの学びを皆さんとともにより良いものとしていきましょう。

文責 指導教諭 永井 陽寛

物語文を読むとき「考える」

題名…… 中心人物の名前 キーアイテム・キーワード 作中の台詞、

場面の変化 時間、場所、人物の変化を参考に考える、

登場人物…… 中心人物は誰か、

中心人物に深く関わり影響を与える人物は誰か、

山場…… 作中で中心人物のものの見方、

考え方や人物同士の関係が大きく変わる「ころ」はどこか、

「一番大切なこと」

中心人物の心情の変化を読み取る、

どのように変わったか、

なにが変えたのか、

どうして変わったのか、

物語の「最後の一文」には、その最後の言葉がキーポイントになった一文です。そこから考えを広げていくことで、様々な気付きに出会えるでしょう。

登場人物に寄りそって考えよう、

まずは、登場人物の行動から、その人物の考えや心情を読み取りましょう。

「その人を知る」ことから始めましょう。

自分の考えを作ろう、

登場人物に寄りそった後は、自分の考えを作りましょう。納得・共感・反対・疑問、

自分はどうのように考えたのかを大切にしましょう。

自分の言葉で表現しよう、

自分の考えを作れたら、自分の言葉で表現しましょう。「発表する」書いて表す、

「音読で表す」、得意なことから少しずつ、

つなげて考えてみよう、

登場人物の行動、文章の場面、場面と場面をつなげて考えてみましょう。

その考えや行動は、前の出来事とつながっています。次の考えや行動はその次の、

出来事につながっています。その時々の時で考えるのではなく、広い視野を持って、

読み進めましょう。

これまでの学習で様々なことのある物語をつなげてみましょう。

内容で似ているところや違うところをみつけながら読むと、深く読み進めることができます。またその時学習した「読み方」を活用してみましょう。

対比させよう、

「二つのものを比べる」ことによって、それぞれの特徴や性質を見つけます。

考えに因つたら、まずは比べて考えてみましょう。

比喩表現・情景描写を見つけよう、

比喩表現や情景描写の中にある単語や考え、心情を読み取りましょう。

文学的表現に立ち止まることで、考えが広がり深まります。

説明文を読むときに考えること

段落

…小さいまとめ (1マス空いている)。

話の内容でまとめていく。

まとめ

…大きなまとめ 構成 (初め・中・終わり)。

初め

・ 問い
・ 話題提示、

筆者の主張の紹介、

中

説明、

・ 問い、筆者の考えの詳しい説明、

・ 例、

・ 実験、

・ 事実と考え など、

(中のまとめがある場合もある)。

対応する

終わり

まとめ、
・ 答え、

筆者の主張、

○ 筆者の主張… 作品を通して筆者が読者に伝えたいこと。

この主張を伝えるために筆者は作品を作っている。

○ 作品を読んで考えたいこと。

☆ 内容面

… 筆者の主張に対して納得したかどうか。

書きぶり面

… 内容を伝えるための書きぶりの工夫があったか。

事例の順序は適切だろうか、図やグラフは効果的だろうか、
文章中の言い回しは読者をひきつけているだろうか、など。

☆ 書きぶりの工夫 (事例や図など) に効果があるかどうか。

筆者の工夫にどのような効果があったのかを考えてみましょう。

そういった工夫を使うことで、豊かな文章になっているのか、自分の考えを作っ

ていきましょう。

☆ 自分が書き表す文章に取り入れよう。

書きぶりの工夫を自分が書く文章に取り入れていきましょう。

どのような工夫をすれば、自分の考えが相手にわかりやすく伝わるか、納得して
もらうにはどう書けばよいか、相手を意識しながら書き進めていきましょう。

R4年度 成果

【児童】

- ・「書くこと」への苦手意識はなくなってきた。
- ・自らの考えを持つ意識が根付いてきた。
- ・言語活動での成果物を喜んで交流する姿が見られた。

【教師】

- ・言語活動を設定して逆向きの授業づくりに対する意識が少しずつ根付いてきた。
- ・職員室で授業の話を交流する姿が増えてきた。

前年度からの課題

【児童】

- ・条件付きで文章を書く「情報操作」
- ・「書く」の前段階である、「考えの形成」

【教師】

- ・授業づくりにおける理解度の個人差
- ・「授業の共有」をする場や時間が少ないこと

R5年度

○研究テーマ

「単元をデザインし、子どもたちの読みをつなぎ、
深める授業のあり方
～考えの形成をめざした授業づくり～」

今年度は「説明文教材」で授業研究を進める

- ・「言葉のちから」「情報操作能力」の育成をめざす
- ・言語活動を設定した逆向きの単元計画作成
- ・第3次での「考えの形成」をめざして
第2次で「わくわくするような学習課題」の設定

○R5年度 SE担当 4月からの取組み

- ・国語通信、teamsでの共有
- ・学年と共に教材研究、先行授業
- ・全体研修、ミニ研修
- ・教科書巻末「学習に用いる言葉」「言葉の宝箱」の活用

国語通信

月に数号、取組み共有のため教職員に配布

○授業の共有

- ・授業展開
- ・板書例

○知識の共有

- ・学習指導要領
- ・研究授業

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.2号
4月24日

新学年が始まって2週間が経ちました。まだまだいろいろと慌ただしい中、本格的に授業も始まっていることでしょう。子どもたちが生き生きとたくさん自分のことを語れるように、ご指導よろしくお願いします。

☆授業の作り方について、

先日の研修では、昨年度に正本先生からご助言いただいた内容をざっくり振り返りましたが、今回はその中でも授業の作り方、「逆説的に授業を作る」ことについてお話します。理論的な話になりませんが、今後の研修等でもみずみずしくお話ができるようにしますので、わからなくても必ず読んでみてください！

○学習指導要領における「読むこと」の指導過程、

「構造と内容の把握」→「精査・解釈」→「考えの形成」→「共有」

・「構造と内容の把握」とは「読み進めていくための基礎作り」

文学教材 …あらすじや登場人物の特定、ある程度の人物像の読み取り、必要に応じた時代背景や舞台の把握など

説明文教材…題名読みや全文を通じて何が書かれているかを読み取ること、どういう事例が挙げられているかの読み取り、明示されている「問い」とそれに対応する「答え」を見つけること、また、簡単に読み取れるのであれば「はじめ・なか・おわり」の構造など

・「精査・解釈」

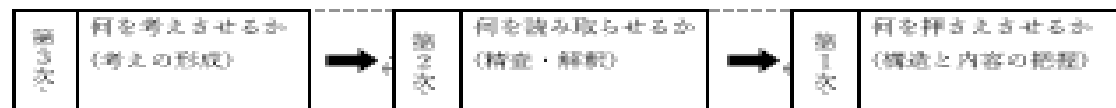
文学教材 …心情の読み取りや人物の重要な言動の原因や理由を考えること、さらに、それらをふまえて人物の変化や表現の効果などを捉えること

説明的教材…段落相互の関係の読み取り、事例とその順序の適否や意図、言い回しの上さの検討、さらに題名と内容の関係など

・「考えの形成」

文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既済の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと(小学校学習指導要領より)

○逆説的な授業づくりの考え方、



授業を作る際には、指導過程とは逆に考えていきます。単元のゴールとして「何を考えさせたいか」からはじめて、そのために各時間で「何を読み取らせるか」、読み取れるように「何を押さえるか」と逆説的に考えていきましょう。

○子どもたちが単元の目標をもって意欲的に取り組めるように、

重要なのは「単元の見通し」。第三次で行う「考えの形成」の活動を単元の終わりに唐突に教師から切り出されても、子どもたちは「やらされている感」がぬぐえません。なので、単元の前半の初回の交流の後に、何のために教材を読んでいくのか、しっかりと方向性を示しておくことが重要です。

☆「書く」ために「読む」！「読む」ために「書く」！ を忘れずに

参考文献 東京・国語探求の会 著 石丸恵一 編 (2020)

「考えの形成を促す説明文の発問・交流モデル」

ちなみにこの参考文献は正本先生も執筆されているので、今年の本校の授業の基になる理論が書かれています。永井の机の上にありますので、是非読んでください！

○逆説的な1時間の授業の作り方、

「ふりかえりで書かせたい(押さえたい)内容を考える」→「つなげる発問を考える」

☆毎時間のふりかえりが集まることで、単元のゴールの書く内容の充実度が決まります！

授業を拝見させていただく中で、ふりかえりの書かせ方について悩まれている先生がおられました。

・ふりかえりが形式的なことしか書かれていない。

・「○○さんの考えがよかったです。」のみのふりかえりになってしまう。

極端なことを言うと、しばらく(1学期の間くらいは)「ふりかえり」は必要ありません！「ふりかえり」という形ではなく、「まとめ」を書かせてください！

※「まとめ」と「ふりかえり」の違いについては「ノート指導例」に書いています。

まとめでその時間の内容の要素がないと、単元のゴールの書く活動の内容も薄っぺらくなってしまいますし、子どもたちも「何を書けばいいかわかん！」となります。まずはしっかりと「まとめ」させてあげてください。そして先生自身もどんなまとめを子どもたちが書けばその日の授業は目標に到達したのか、授業を作る際に考えてみてくださいね。

今回も字がとて多い通覧になってしまいまして、申し訳ありませんでした。

教材研究・先行授業

授業案検討→1クラスで先行授業→授業改善

- ・SE担当の授業を見学することでイメージがしやすくなった
- ・授業後の感想を交流することで互いの授業改善につながった

全体研修・ミニ研修

4月 研究主題、取組みの方向性の共有

7月 1学期の振り返り

8月 指導案検討

- ・全体研修をすることで学校としての方向性を確認できた

ミニ研修

経験年数の浅い教員への研修

研究授業後の研究討議での疑問解消研修

- ・疑問を持ち越さずに話せる場を作れた

説明文における言語活動パターン例

A. 学習したことを活かして、考えをまとめる、次のことに広げていく

例 書評を書く 学習レポートを書く 意見文を書く
手紙を書く 帯・ポップにまとめる など

→読み手の立場で書く

B. 筆者の書き方を使って、説明文を書く

例 ○○図鑑 ○○のちえ ○○を楽しむ
すがたをかえる○○ など

→書き手の立場で書く

R5 言語活動 学年別一覧表

A…学習したことを活かして、考えをまとめる、次のことに広げていく(読み手の立場で書く)
B…筆者の書き方を使って、説明文を書く(書き手の立場で書く)

	第 1 教材	第 2 教材	第 3 教材	第 4 教材	
1 年	くちばし ☆「くちばしクイズ」を作ろう (A)	うみのかくれんぼ ☆かくれんぼ名人を探して伝えよう (B)	じどう車くらべ ☆じどう車すがんをつくろう (B)	どうぶつの赤ちゃん	
2 年	たんぼぼのちえ ☆「〇〇のちえ」を書く (B)	どうぶつ園のじゅうい ☆筆者への手紙を書こう (A)	馬のおもちゃの作り方	おにごっこ	
3 年	こまを楽しむ ☆「〇〇を楽しむ」を書く (B)	(ポスターを読もう)	すがたをかえる大豆 ☆「すがたをかえる〇〇」を書こう (B)	ありの行列	
4 年	アップとルーズで伝える ☆「作品を比べる」レポート (A)	(パンフレットを読もう)	世界にほこる和紙	ウナギのなぞを追って	
5 年	言葉の意味が分かること ☆作品の批評文を書く (A)	(新聞を読もう)	固有種が教えてくれること ☆統計資料を用いて意見文をかこう (A)	想像力のスイッチを入れよう	
6 年	時計の時間と心の時間 ☆筆者に意見文を書く (A)	(利用案内を読もう)	「鳥獣戯画」を読む	メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために	今、あなたに考えてほしいこと

○年間スケジュール

研究授業日程

1学期	5月31日(水)	3年「こまを楽しむ」
	6月14日(水)	5年「言葉の意味が分かること」
	6月28日(水)	4年「アップとルーズで伝える」
	7月 5日(水)	2年「どうぶつ園のじゅうい」
2学期	11月 1日(水)	1年「じどう車くらべ」
	(公開授業)	3年「すがたをかえる大豆」
		5年「固有種が教えてくれること」
	11月 8日(水)	1年「じどう車くらべ」
3学期	1月 24日(水)	6年「メディアと人間社会」

☆すべて正木先生の指導助言

○今後の展望

- ・各学年「説明文教材」の単元計画作成
- ・説明文でつける力、言語活動例の系統性作成
- ・他教科との関連
- ・よりよい校内研究の取組み

○3年「こまを楽しむ」

言語活動

「3年1組書き方のコツを使って

『○○を楽しむ』の説明文を書こう」

「書き方のコツを見つけよう」

- ・筆者(本文)と先生の書いた文を比べて書き方のコツをまとめる

☆教師側がわざと「**エラーモデル**」を用意することで子どもたちを揺さぶり、発言を引き出していく

- ・クラスでまとめたコツを使って「○○を楽しむ」の説明文を書き書き手として考えの形成をはかる

2.	3.	・「こまを楽しむ」を通読する。	○	それぞれの段落や文章全体の中心となる言葉や文があることを理解している。(記述・発言)【知】
		・段落と二つの「問い」を見つけ、「初め」「中」「終わり」の文章構成に分ける。	○	段落相互の関係に着目し、文章の内容と構成を理解している。(発言)【思C】
		・一番楽しそうなこととその理由について初発の感想を書く。	○	段落の中心となる言葉や文を捉えている(発言)【思C】
4.		・感想を交流し、学習課題を設定する。	○	交流して、互いの感じ方や考え方の違いについて気づいている。(発言)【思C】
		筆者から書き方のコツを学び、「○○を楽しむ」の説明文を書こう。		
5.	6.	・楽しさが伝わる書き方のコツを見つけ、まとめる。	◎	進んで段落相互の関係に着目し、文章の内容を捉えようとしている。(観察・記述・発言)【態】
本時	7.		○	交流して、互いの感じ方や考え方の違いについて気づいている。(発言)【思C】
	8.	・「中」の事例の順序と「終わり」の締めくくりの表現について考える。	○	積極的に説明される内容とそれを支える事例の関係に着目し、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。(発言)【態】

①こまを回して遊ぶことは、昔から世界中で行われてきました。長い間、広く親しまれるうちに、こまには、さまざまなくふうがつみかさねられてきました。そうして、たくさんのかまが生み出されてきました。日本は、世界でいちばんこまのしゅるいが多い国だといわれています。では、どんなこまがあるのでしょ。また、どんな楽しみ方ができるのでしょ。

②こまの表面には、もようがえがかれています。ひねって回すと、もように使われている色がまざり合い、元の色とちがう色にかわるのがとくちゅうです。同じこまでも、回すはやさによって、見える色が変わってきます。

③こまのどうは大きく、中がくうどうになっいて、どうの横には、細長いあなが空いています。ひもを引っぱって回すと、あなから風が入りこんで、ボーッという音が鳴ります。その音から、うなりごまともよばれています。名前は鳴りごまで、回っているときの音を楽しむこまです。

④さか立ちごまは、ボールのような丸いどうをしています。指で心ぼうをつまんで、いきおいよく回すと、はじめはふつうに回るのですが、回っていくうちに、だんだんかたむいていきます。そして、さいごは、さかさまにおき上がって回りま。

⑤ たたきごまは、たたいて回しつづけることを楽しむこまです。このこまのどうは、細長い形をしています。手やひもを使って回した後、どうの下ぶぶんをむちでたたいて、かいてんをくわえます。でも強くたたくとどこかへ飛んでいくかのうせいがあるし、弱くたたくととまってしまいます。すぐには上手に回せないかもしれないので、子どもにはむずかしいかもしれません。

⑥ 曲ごまは、曲芸で使われ、おどろくような所で回して、見る人を楽しませるこまです。曲ごまは、心ぼうが鉄でできていて、広く平らなどうをしています。台の上で手を使って回し、そこから細い糸の上や、ぼうの先のような回しにくい所へうつしかえて回しつづけます。曲芸でしか使われないので、めったにみることはできません。

⑦ ずぐりは、雪の上で回して楽しむこまです。ふつうのこまは、心ぼうが細いので、雪の上で回すことはできません。いっぽう、ずぐりは、雪の上で回して遊ぶことができます。るように、心ぼうの先が太く、作られています。まず、雪に小さなくぼみを作り、わらでできたなわを使って、その中になげ入れて回します。

⑧ このように、日本には、さまざまなしゅるいのこまがあります。それぞれ色も形もちがいますが、じくを中心にバランスをとりながら回るというつくりは同じです。人々は、このつくりにくふうをくわえ、回る様子や回し方でさまざまな楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきたのです。

○5年「言葉の意味が分かること」

言語活動

「作品の批評文(書評)を書こう」

「作品の項目別の点数をレーダーチャートに表そう」

・「わかるベース」の授業から

「**わからないベース**」の授業への変換

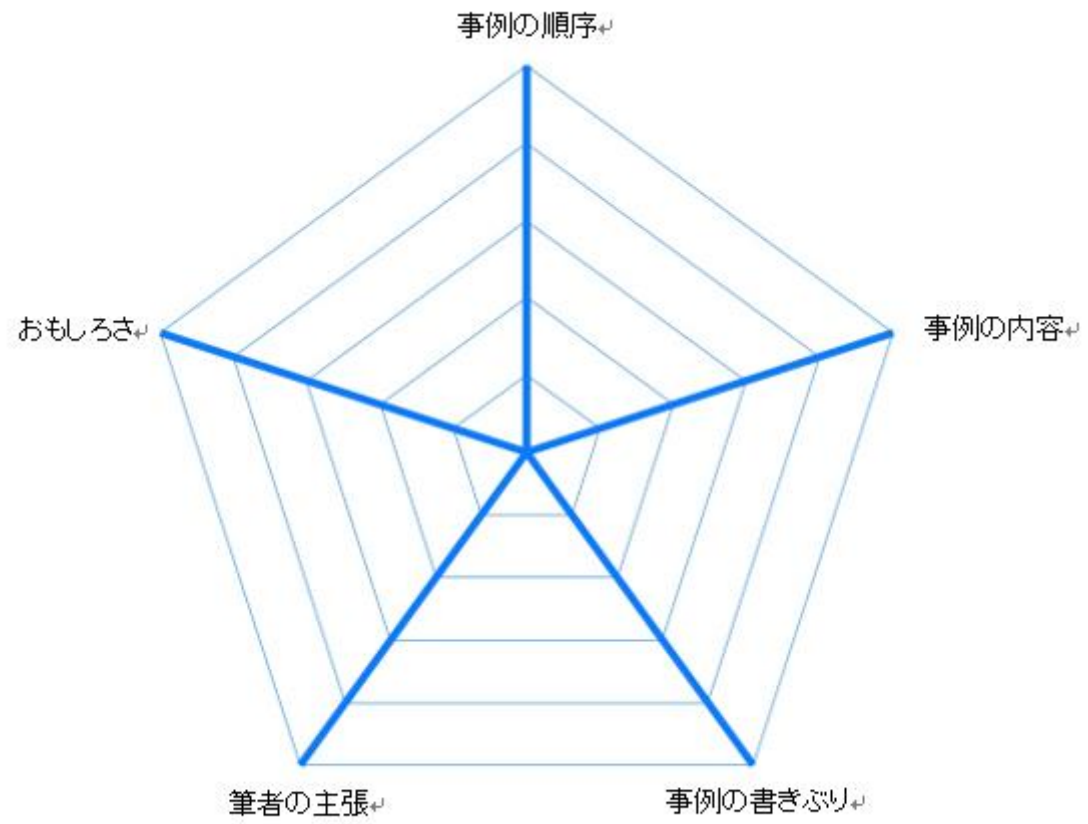
・「事例の書き換え」を通して

読み手から書き手への迫体験

・批評文を書くことで考えの形成をはかる

9. 単元の指導と評価の計画(全10時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1.	2.	・「見立てる」を読み、文章構成を確認する。 ・文章の要旨を150字以内でまとめる。	・	・ ◎	・	・文章構成や例の挙げ方について考えながら、筆者の考えを捉えている。(記述)【思・判・表】
2.	6.	・「言葉の意味が分かること」の本文を読み、文章構成を確認し、感想を書く。 ・感想(理解しにくい点を中心に)を交流する。 ・レーダーチャートの3つの観点(①事例の順序、②事例の内容、③事例の書きぶり)を各時、学習前と学習後で自分の考えの変化を捉える。【本時】 ・文章の要旨を150字以内でまとめる。	○ ・ ・ ◎	・ ・ ・ ◎	・ ・ ◎	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(発言・記述)【知】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・記述)【知】 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(記述)【思・判・表】 ・「言葉の意味が分かること」について、文章全体の構成を捉えて筆者の要旨を把握している。(記述)【思・判・表】 ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握しようとしている。【態】
3.	2.	・レーダーチャートを通して、本文に対する批評文を書く。 ・批評文を交流し、よりわかりやすく説明するために何が必要かを考える。	・ ・ ○	◎	◎	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(記述)【思・判・表】 ・筆者の考えや論の展開に対する自分の考えをまとめようとしている。(記述)【態】



3年生研究授業まとめ

2023.5.31 学力向上部



コフは必ずしも一段落に一つ作らなくてもよい

読解文のポイントリマージュ

- 一、誰が動く前に心が動く
感情を大切に（心のエンジンに火をつける）
面白い、なるほど、わからない、やってみよう
どこからそう思ったのか読み解く
- 二、あたりまえ わかったつもり ぶまたまやん
筆者の意見・書きぶりをもとにしたら違うのでは？という疑問を持つことが大事
学習全体で繰り返しようとする学習課題
- 三、「なぜ」「ひみつ」「Dけつ」に
「Dけつ」と「もえ」を関連する
文章を一文単位で読むため、語彙には必ず空欄がある→筆者の意図、意図を見つめられる

教師とシェリー

- コントロール — 思考をしやすい環境を整える
能力を高めるためにコントロールする
- マネジメント — 課題を求めたためにカードをばす
ともに作り上げていく、調整

教師の能力を上げる

クリティカルシンキング（批判的思考）

- critical=徹底的な、重大なという意味の言葉
- Ⅰ 筆者の考えを言い表す
- Ⅱ 筆者の意見・書きぶりから大切なことは何なのか考えること
しかし、子どもからすると筆者は教科書に載った人という権力があり心理的な壁がある。なかなか自分の意見を言えない。
- 心のシャッターが開いた学習活動（環境が必要）
- 本時の一言目「英語を調べてくれてありがとう」
筆者と読者の文章を比べる学習活動

「なぜ (Why) 発問」

- 「なぜ (Why)」と問うと
「それは～だから (Because)」と答えたいといけなく
筆者にしか答えはわからない、当事者じゃないから答えられない。「筆者が正解」が前提になる。
今回の授業は「どちらが正しい (Which)」
→選択肢があると答えやすく、考えの形成がしやすい
筆者と読者の違いは？と聞くより考えやすかった

聞きあうために何を変えようか

- 子どもが自分で考える方法を導く（自己調整）
- ・タブレットワークシート
 - ・板の時間
 - 一人て考える
 - 隣の人と考える
 - さんと考える
- 学習環境を整える。
教師はリーダーではなく、バランサー
学習的コントロールを子どもたちに委ねる！

5年生研究授業まとめ

2023.6.14 学力向上部



「わからないベース」の授業

- Ⅰ 「わかるベース」⇒「筆者の工夫を見つけよう」⇒「筆者の文章はいい」
⇒「筆者の文章が正しい」⇒「それがわからない自分(子ども)がわかる」
となると、「わからない」は子どものせいになる。学びのシャッターが下がる。
- Ⅱ 「わからないベース」⇒「自分にとって理解しにくかったところを見つけよう」
⇒「わからなかったところがあって当たり前」⇒「文章の良し悪しの問題」
⇒「どうしたらわかりやすくなるか考えていこう」スタートのハードルが下がる。
- ☆「わからないベース」の授業とは、「わからなさ」から授業の問い始める期間のこと。「わからなさ」を共有すると子どもたちは安心する。そうすることで、「わかるために何がやるかな？」とわからなさを解消していく授業になる。

「読み手」と「書き手」の立場

- 「わからない」は「読み手」の立場。そこから「例を書き換える」「順序を入れ替える」「文章を付け足す、削る」などの行動に繋がる。「書き手」の立場を体験することになる。そうすることで書き手が書き換える。そして、「筆者の書きぶりも悪くないな」という通感が増える。選択肢がないといものは選べない(応答)。一回応答する時間がないと深まらない(山がぼる)。これが筆者との対話となり、「批判的に読む」ことの重要なプロセスとなる。
- Ⅲ 書き手は誰から見るか、上から見るか、横から見るか、正面から見るか、と問わず、上からの景色も知った上でどうもがよいかな？

思考ツール・認知ツール

思考ツールには力がある。が、学習課題に適しているかは見極めが必要。子どもたちにもいろいろと試させて使わせていく。
他者にも思考ツールの使い方がどの程度であるかを見ていく。

「何のために」発問

筆者の書く事例はなんのために？
→読み手に自分の考えをわかっている、わからずんばことを加えてほしいという願いが込められている。筆者の「主張」や「問い」とつながって読むことが求められる。また、筆者のゴール（ゴールなど）ともつながることを願いにつなげてほしい。

「指導書について」

教師の発言である「指導書」が子どもの思考の促進に役立つ。しかし、それが与えられると子どもたちが混乱してしまう。

今回は

「自分にとってわかりにくいところ、わかりやすいところ」(自分ベース)と

「筆者の文章がわかりやすくなるには、」(評価の一般化ベース)とは立場が違ふので注意が必要。指導書は与えないように事前に確認！

○4年「アップとルーズで伝える」

言語活動

「良さを伝える紹介文を書こう」

「筆者の工夫を見つけよう」

・「アップとルーズで伝える」で筆者の書きぶりの工夫を考える

・「くらしの中の和と洋」(東京書籍)を読み筆者の書きぶりの工夫を考える

☆「比較」の書き方を学ぶとともに、

「比較して考える」考え方も学ぶ

・自分が良いと考えた作品について紹介文を書く

※ 9. 単元の指導と評価の計画 (全時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思考力	主体	評価規準・評価方法
1	2	「思いやりのデザイン」の文章構成を確かめる。 「アップとルーズで伝える」の初発の感想を書く。 「思いやりのデザイン」と比較する。 - 単元の日標を確かめる。	○		◎	- 本文を「初め」「中」「終わり」に分けることができ、双挿型の構成であることに気付くことができる。(発言・ノート) - 単元の日標を的確に捉えながら、作品に対する自分の考えを表すことができている。(ノート・観察)
2	5	「初め」「中」「終わり」に分ける。 - 筆者の考えが書かれた部分を見つける。 「思いやりのデザイン」と比較する。 - 第四段落と第五段落の対比に注目し、アップとルーズの特徴を明らかにする。 - 第六段落と第七段落の役割について確認する。 - 本文の構成を図に表す。 「くらしの中の和と洋」を読み、内容を理解する。 「くらしの中の和と洋」と「アップとルーズで伝える」を比べながら読む。(本時)	○ ○ ○	 ○ ○ ◎		- 本文の文章構成を捉えることができている。 「思いやりのデザイン」との類似点に気付くことができる。(発言・ノート) - 対比を用いた筆者の説明の工夫をつかみ、「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を理解している。(発言・ノート) - 段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。(発言・ノート) 「くらしの中の和と洋」を読み、内容について、ノートにまとめることができる。(発言・ノート) 「くらしの中の和と洋」の対比の表現を見つけ、「アップとルーズで伝える」と比べることができる。(発言・ノート・)
3	2	- どちらかの文章についての紹介文を書く。 - 紹介文を読み合う。		◎	○	「アップとルーズで伝える」と「くらしの中の和と洋」の対比の表現に注目し、比べながら、どちらかの文章の良さを伝えようとしている。(ノート・観察) - 友だちの作品を読みながら、その表現の良さに気付くことができている。(発言・ノート・観察)

○2年「どうぶつ園のじゅうい」

言語活動

「筆者に手紙を書こう」

「筆者の仕事を通して考えや思いを想像する」

☆「一番大変な仕事はどれか」

判断でしかける発問の三要素

限定・比較・否定

自分の考えを持つことによって、手紙で書きたい内容を精選することにつながる
特に低学年では「大変、大切、すごい」などの情的な反応を出し、言語化させていくことが必要！

9. 単元の指導と評価の計画（全10時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	愚利表	主体	評価規準・評価方法
1.	1.	・獣医の仕事の内容を予想した後、全文を読んで感想をもつ。	..	○	..	・獣医の仕事に対する自分の考えをもつことできる。(発言・ノート)
	2.	・時間を表す言葉に着目し、挿絵を並び替える。	○	..	..	・時間的な順序を捉えることができる。(発言)
	3.	・段落ごとに時間、動物、仕事の確認をする。(→お風呂は仕事に入るのか)	○	..	..	・内容の大体を捉えることができる。(発言・ノート)
	4.	・仕事がいくつあるかを確認し、毎日の仕事とその日だけの仕事に分ける。	○	○	..	・事柄の順序を捉えることができる。(発言・ノート)
2.	5.	・叙述に基づいて、獣医さんや飼育員さんの言葉や治療の様子を考える。(→どんな会話をしながら治療をしているのか)	..	○	○	・挿絵を参考に動作化や吹き出しを使い、その場のような想像することができる。(発言・ノート)
	6.		..	..	..	
	7.		..	..	..	
	8.	・一番大変な仕事はどれか考える。【本時】	○	○	..	・叙述をもとに解釈したことをノートに書き表すことができる。
3.	9.	・読み取ったことをふまえて、筆者に手紙を書く。	◎	◎	◎	・進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを書くことができる。(ノート)
	10.	・書いたものを読み合う。				・進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、考えたことを共有しようとしている。(発言・ノート)

4年生研究授業まとめ

2023.6.28 学力向上部



比較を使うのは何のため？

筆者が比較をするのは、読者にとって読解のためのわかりやすくして理解してもらうため。筆者の思いをよくみ取り、自分はどう感じたかを述べるのは授業のあり方は大きく変わる。

何かを比較する場合には何のために比較するのかという目的と、比較するための観点が重要。

- 例) もんじゃもんじゃの歌っている音楽とそれ以外の音楽の違いを比較
 - 目的→食べる人がどんなもんじゃの歌と食べやすいか選ぶ
 - 観点→味、食感、調子の種類など

→比較はあくまでも目的のために用いて、比較することが目的にならずに済むように。

子どもたちに求められている力を見る授業

今日の授業では、文章と文章の「比べ読み・重ね読み」への理解の深さに基づいてほしいか読解は習ったことを使ってほしいと願うけれど…

「筆者の工夫を見つけよう」という 読解→理解→理解 の流れでは、筆者が比較をしているのは何のため？という 見つける→探す→気づく の流れで授業づくりをするのと違ったふりかえりになった。

今日は、ハードルの高い学習課題であったかもしれない。だから違う形の授業をしように考えるのではなく、どうやって学習全体を取り組めるかと前向きに考えることが大切。

個人→集団→個人 の授業展開

一人の時間も大事だが、わからないペースで黙して読んで気づくのも一人指図→発言 いろいろな意見が出てきてさばききれない。

読解をはるなど意見を会から合う方法を考える必要がある。

指導者の記述

「一つの筋で読解中と読解のあるものについて比べ、読解中と読解の違いに気づくことができる。」
→もう少し学習したことへの記述があるとうい

- これまでに学んだ「比べる」という読解の具体例
- 読解的な力にどのような課題があるのか
- 児童にとって読解的なことは何か

これまでに学んだ読解の課題と今日の読解はどんなつながりがあるか、どんな違いがあるのか、これらが書かれていると、授業や児童の理解がより深まりやすい。

「わからないペース」の授業

読み手として文中の比較を見つけていく読み方は、わからないペースで読む、が、児童によってスタートのハードルが高くなる。

読み手として文中の比較に気づく読み手
→筆者はなんでこんな書き方をしたんだろう？

なんのために筆者は比較するのか？
「よくわからない」から「わかる」ために何が必要かの理解につながる。

2年生研究授業まとめ

2023.7.5 指導推進部



めあては「学習目標？」「解決課題？」

めあては「仮のめあて」として学習課題を設定してもいい。仮のめあてを設定したほうが「火をつけやすい」、学習目標を先に出すと「ネタばれ」する。仮のめあてを授業の中で読んで目標へ、という展開もある。

授業は導入、展開、まとめで構成される。まとめの扱いがサマライズ（要約すること）なのかリフレクション（反省すること）なのか、どちらかで表現するのは難しい。めあてとの関連性が大切だが、授業展開にもよる。今日のふりかえりはめあてと連絡するつながりはなかったかもしれないが、めあてを踏まえて学んだことは何かとふりかえられていたのがいい。

題名から教材の特性を考える（具体と抽象）

「題名」はもっとも抽象度が高い「本文の一言要約」。その分、空白が多く言葉を付け足すことで思考が広がる。「どろどろのどろどろの（の○○）」「すがたをかえる大団（の○○）」など、抽象化された言葉を具体化していくことで、そこに含まれる要素を読み取って、そこから筆者の思い・願いを考えることができる。

「音読」の設定について

音読のときの子どもたちの声の中では「聞く」「話す」「考える」「聞きながら考える」など多岐の活動が行われている。音読は「読解力を高めるために必要」である。しかし、学習課題に合わせて思い切ってなくすのもあり。「音読指導」は別の時間をもって行うほうがいい。

ゆきぶりの展開の三要素「限定」「比較」「否定」

「一番○○なのはどれか？」例題
数ある中から「あえて一番を選ぶなら」という思考の促し→子どもたちの「思考・判断・表現」を促すことにつながる。
「しぼって」「くらべて」「のりこえる」ことで「判(け)断(つ)」する。子どもたちの考える表現をまみ出した。

わからないペース型授業の系統性

低学年…限定的な反応を出す→言語化
「大変」「大団」「すごい」
→筆者の願いにつながっていく

中学年…なんでだろう？他には？→言語化
→筆者の書きぶりを「ふりかえる」が多くなる。

高学年…わからない、もやもやとしたところ

- ① 「よくわからない」表現と「よくわかる」表現
- ② 「よくわからない」から「わかる」ために何が必要かの理解と発見

よく「わかる」状態になるためには、何が必要か？
→「教材の特性」に基づいて「よく読む」
→「読む」

読解文で考えたいことは「筆者はなんのためにこの文章を書いたんだろう？」「なにを知ってほしいのかな？」

○大切にしていきたいこと

- ・こどものわくわく感
- ・教員同士の知識や技能の共有・コミュニケーション
- ・同じ方向を向いて進める環境づくり

ご清聴ありがとうございました。